

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2023 年 4 月

第 108 号

プロジェクト未来遺産に応募して

山上 薫

『未来遺産』……助成金担当者として、NPO こんぶくろ池自然の森の活動や、そのフィールドであるこんぶくろ池自然博物公園に適する助成金メニューがないか、ときどきサイトをチェックしていますが、あるとき見慣れない単語がヒットしました。

ユネスコの世界遺産（自然遺産、文化遺産）は有名ですが、未来遺産とは何だろう？ 調べてみると、日本ユネスコ協会連盟のサイトに次の説明がありました。

「未来遺産運動は、地域の“たからもの”を未来の子どもたちに伝えたい、という想いの下、未来へと継承していくための地道な努力を続ける“人”と“活動”に光をあて、応援するものです。市民による草の根の活動を『プロジェクト未来遺産』として登録することで、次世代を含む個人や企業、行政による理解と協力や、さまざまなつながりを生みだし、さらには日本全国に運動の輪を広げていくことを目指しています。」

一読して、助成金というカテゴリーを超えて、これはまさに当 NPO の活動にピッタリなのは、というのが第一印象でした。ただ、同サイトに紹介されている先登録事例には知名度の高いものが多く、その点ではちょっとハードルが高いかな、とも感じました。はっきり言って、地方に行けば、こんぶくろ程度の自然環境は珍しくありませんので……。さらに、見ていきますと、都市近郊林の保全再生活動についての先登録事例が見当たらず、また、千葉県での登録事例はまだありませんでした。そこで、とりあえず応募シートに記入してドラフトを作成し、理事会に提案してみることにしました。

応募シートの項目は多岐にわたりますので、ドラフトを作成する以上、当 NPO の活動の歴史やこんぶくろの自然環境、そして歴史遺産などについて、きちんと整理しておく必要があります。そのため、いくつかの資料に目を通しましたが、とりわけ、再読した『池物語』からは多くの示唆を得ることができました。

応募シートの最初の項目は、プロジェクト名です。ここは迷わず、2005 年の『こんぶくろ池公園整備基本計画策定調査報告書』から続く、『市民で育てる 100 年の森プロジェクト』としました。そして、「柏の葉スマートシティに隣接して残る、湧水のある広大な都市近郊林の市民による保全再生活動」を一貫して訴求ポイントとしまし

た。また、応募シートには未来遺産登録の5つの審査基準も明示されています。無理に飾ることなく、ありのままに次のように記入しました。

- ① 【メッセージ性】→ 縄文海進前から続く貴重な自然の次世代への継承
- ② 【モデル性】→ 都市近郊に残る自然環境の保全と先進的な市街地開発とが共存する街づくりのモデルケース
- ③ 【次世代育成】→ 子どもたちへの環境学習の場の提供と若者サポーターのボランティア参加
- ④ 【地域活性化】→ 市民が中心となり、自治体、大学、企業、他団体など多様な主体と連携しての地域活性化
- ⑤ 【独自性】→ 市民が主体となった100年の森の保全再生活動

その後、応募に必要な柏市の推薦をいただき、審査委員の先生方による現地調査がありました。寒い日に実施された現地調査では、園内や会員の皆様の草刈り作業などをご覧いただき、完成させたばかりの地金堀沿いの木道を歩いていただきました。また、事務所でのヒアリングにおいては、説明不足の点多々あったと後から思い返し、少々気をもんだりもしました。

この度、『市民で育てる100年の森プロジェクト』が未来遺産に登録されましたのは、1980年代から続く市民による地道な自然保護活動が客観的に評価された証の一つと言えると思います。

ところで、未来遺産プロジェクト応募シート作成のために『池物語』などを再読し、気づいたことがあります。

4年半前、私がNPOに入会して間もない頃、合同活動日の朝礼で、調査班のメンバーと里山班のメンバーが、ある保全作業の是非について激しく口論しました。そのとき私は、会社でもないのにボランティア活動で何を争っているのか、自分は入会先を間違えたみたいだ、と後悔しました。その後も、ときどき対立を目にして、たかが60人程度の団体が二つの班に分かれ、合同活動日以外は別々に活動していることに違和感を抱き続けてきました。

人の力を加えずに、あるがままを静かに見守るべきだ…。

人の力を加えて、多くの人に訪れてもらい認知度を高めるべきだ…。

自然公園のあり方にはいろいろな考えがあり、こうした両極の間にも様々な立場があろうかと思います。また、自然環境の保護のあり方についても多様な考えがあろうかと思います。ボランティアなのだから、同好の人々がグループを作って一緒に楽しく活動できれば良いとも言えますが、当NPOは指向の異なる二つのグループが合同して設立されたという経緯がありました……そこに、当NPO独自の強みがあるのではないかな？

「こんぶくろの自然を愛する」という想いには違いはなくても、その方法論には様々な考え方があり得ます。どれが正しいと一概に言えるものではなく、様々な観点からの議論を通じて保護と利用を調和させ、常に変化する多様な自然環境の現状を把握して柔軟に対応してい

く必要があります。そして、当 NPO はそれができる……ここまで書きますと、その気づきは勘違いに基づく合理化だとの声が聞こえてきそうです……しかしながら、当初、2022 年度末で終了予定であった、こんぶくろ池自然博物公園を囲む土地区画整理事業の事業期間は 6 年間延長されましたが、公園北縁の舗装道路計画や、北側排水路の付替え・暗渠化計画は早晚動き出すはずであり、これから当 NPO にとっても、その真価を問われる時期が再度到来すると思われれます。そうした時期にあって、組織内部で議論して多角的に検討された方向性は、外部に対しても、自己満足ではない客観的な説得力を持つものになり得るのではないのでしょうか？

自然環境、とりわけ都市近郊の自然環境は、受動的に『残る』ものではなく、能動的に『守る』、『残す』ことが不可欠です。こんぶくろの『市民で育てる 100 年の森プロジェクト』は、未来遺産登録を一つのマイルストーンとしつつ、これからも、これまでどおりに継続し、次の世代、そしてその次の世代へと継承されていかななくてはなりません。

手賀沼のほとりで

橋本谷 弘司

かつて、手賀沼の水面に富士山の姿を映し出すこともあり、夕陽が美しく、木々の緑に小鳥がさえずり、水鳥や魚もたくさんいました。

柔道の国際化に尽力した嘉納治五郎が明治 44（1911）年に我孫子に別荘と農園を設けていました。

大正 3（1914）年に甥で宗教哲学者の柳宗悦を呼びました。柳が友人の志賀直哉・武者小路実篤を我孫子に誘います。彼らは同人雑誌「白樺」のメンバーでその参加者は白樺派と呼ばれていました。白樺派は、大正デモクラシーの時代の新しい文芸活動です。

白樺派の文人や陶芸家、評論家なども手賀沼を訪れました。風光明媚で東京からも 1 時間足らずで行ける環境にあったからです。



白樺文学館のパンフレット
(参考にさせて頂きました)



志賀直哉の書斎
(志賀直哉邸の元の場所に再移築)

柳宗悦は、我孫子に6年半滞在している間に、朝鮮陶磁器や陶芸家などとの出会いがありました。我孫子は柳にとって「民藝」へと続く出会いと絆の地でした。

民衆の生活に厚く交わる工芸品のなかに、驚くべき美の姿があることを発見し、その価値を人々に紹介しようと、大正14(1925)年に「民藝」という言葉を作り、翌年に民藝品の美しさを公に展示するための「日本民藝美術館設立趣旨」を發表します。

志賀直哉は、我孫子に7年半滞在し、父との和解を題材にした「和解」をはじめ、唯一の長編小説「暗夜行路」の執筆をこの地で開始しました。志賀にとって我孫子は、新たなステップを踏む「創作」の地でした。

武者小路実篤は2年足らずの滞在でしたが、ここ我孫子で「新しき村」の発会式を行いました。

個人が財産を放棄して共有財産とし、集団生活で平等な共同体を実現する「新しき村」の理想を説きました。武者小路にとって我孫子は、「新しき村」への想いを熟成させた「思索」の地でした。

大正7(1918)年、土地が安く暖かな宮崎県の日向に立村しますが、昭和14(1939)年にダムの建設により大半の農地が水没することになり、一部を残して、「東の村」(埼玉県入間郡毛呂山町)に移転します。両村とも厳しい状況にありますが現在も活動中であり、100年以上も続いています。

話は変わりますが、昭和27(1952)年に手賀沼には柏町営水泳場が開設されていました。4年ばかりで閉鎖されましたが、このころから日本の高度成長がはじまります。

手賀沼が全国的に名を知られるようになったのは昭和49(1974)年から平成13(2001)年までの27年間連続で全国の湖沼ワーストンに甘んじていたからです。

これは住宅地が急激に増加し、生活污水が処理されないで流されていたことと、昭和21(1946)年から本格的に行われた干拓事業により手賀沼の4割程度が埋められ沼の浄化能力が低下したことが原因と考えられています。

関係者のご努力でランクはわずかですが最下位を脱出しました。代表的な水質の指標の一つであるCOD(化学的酸素要求量)は最悪期に比べ4割程度と大幅に減少し水質が改善されましたが、まだ環境基準の倍ぐらいの値ですので、より一層の改善が望まれます。

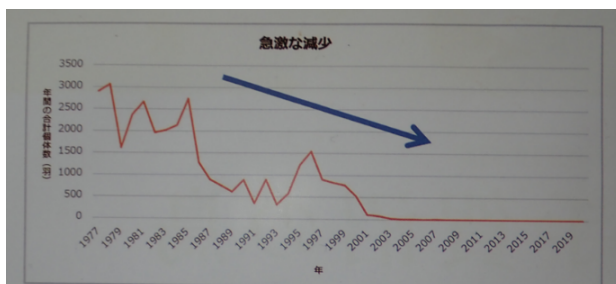
我孫子野鳥の会の皆様が昭和52(1977)年から毎月1回、水鳥のカウントをされています。

昭和52(1977)年ごろには3000羽程度生息していたハシビロガモが現在では一桁台に減少しました。これは水質改善により、餌となるプランクトンが減ったためだと考えられています。

ハシビロガモは扁平なくちばしを水面に付けて、円を描くようにぐるぐる回り、プランクトンを集めて採食します。餌の減少により生態系が変化した事例です。ハシビロガモは冬鳥として渡来しますので、餌のある適地を求めて生活していると思われます。



ハシビロガモ(♀)
(当園ふじ池にて
2018年12月撮影)



ハシビロガモの個体数の推移
(鳥の博物館の第90回企画展より)

3 月理事会

(日時) 2023 年 3 月 25 日 (土) 13:00~17:00
 (場所) 管理事務所
 (出席者) 議長 (理事長) : 岡本
 出席理事 : 上田、萩原、中川、徳永 (書記)
 会計 : 山上

1. 審議検討・確認事項

- (1) 「プロジェクト未来遺産 2023」の登録証伝達式について
 柏市長の出席の可能性も含め、柏市の対応を伺いながら開催に向け準備中。
 時期はゴールデンウィーク明けから 7 月までを目途とする。
- (2) 今年度業務報告と来年度始業務について
 - ・ 柏市への今年度業務報告と来年度契約締結 (3 月末) (岡本・中川)
 - ・ 千葉県への業務報告 (総会終了後) (岡本・中川)
 - ・ 千葉地方法務局での代表者変更登記 (千葉県への報告終了後) (中川)
 - ・ 法人市民税減免申請書 (財務部市民税課) (4 月) (山上)
 - ・ 法人県民税減免申請書 (県税事務所) (4 月) (山上)
 - ・ 法人税減免申請手続き (柏税務署) (6 月) (山上)
 - ・ 損保更改手続き (4 月) (山上)
 - ・
- (3) 来年度の役員等及び窓口担当について
 担当者より示された案について審議した。
- (4) 第 14 回通常総会について
 - ・ 集合形式での開催決定。
 但し、依然としてコロナ禍の心配が残る為、出欠は個人の判断に委ねる。
 - ・ 今後のスケジュールと各議案作成担当者を確認した。
 4/16(日)に総会資料の手交。(当日渡せないものは郵送)
 4/23(日)13:00~15:00 総会
- (5) (3 月開催)「里山の保全活動体験会」の結果報告
 - ・ 参加申し込み 7 名、うち 3 名より入会表明有り。
 - ・ 3/25(土)の体験会には 2 名の申し込みがあったが、雨天の為延期とした。
- (6) 「契約当番業務実施要領」の修正について
 夏季、冬季の対象月変更や当番担当業務を明確化して文書にまとめ、会員に配布する。
 こんぶろ池の水位計測については、当番日誌に記録の記入欄を設ける。必要があれば、管理棟に常備予定の双眼鏡を使用。
- (7) 活動報告の作成担当者及び活動計画検討方法について

- ・ 活動報告の作成担当者：今年度の合同活動日の報告担当者が、里山活動と調査活動の内容をまとめて報告する。
- ・ 活動計画検討方法：今年度までは里山活動、調査活動の活動計画を別々に検討したが、来年度からは月最終の活動後に、合同で活動計画検討の時間を設ける。

(8) 4～5月活動計画

- ・ 4/1(土)実施の「道具の点検 整備」の講師及び内容について協議した。
- ・ 4/23(日)の活動後に、翌月の活動計画について、里山、調査合同で検討。

(9) 4月の通信記事掲載記事について協議した。

2. 報告事項

- ① 令和5年度こんぶくろ池公園維持管理業務委託見積り合わせ
(3/8 10:00)
- ② 令和5年度こんぶくろ池公園維持管理業務委託契約調印
(3/20 13:30)
- ③ 東大 佐藤先生水質調査 (随時)

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。

新入会員紹介 戸巻 朋子さん



参加動機：未来に残していきたい大切な自然を共に守りたいです。

貢献できそうなこと：造園・園芸、調査

趣味・好きなこと：自然散策、園芸

取り組んでみたいこと：木育

ひとこと：以前北海道にて自然環境保全に取り組んでおりました。柏ならではの自然環境を学んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。